

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東名厚木病院4号館	階数	地上5階
建設地	神奈川県厚木市船子232番地	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	400人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年10月 予定	評価の実施日	2015年6月30日
敷地面積	3,297 m ²	作成者	鹿島建設(株)
建築面積	2,099 m ²	確認日	2015年6月30日
延床面積	6,672 m ²	確認者	鹿島建設(株)



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レダ-チャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項	
総合	その他
地域に根差す総合病院として、利用者に優しい設えや物理環境を整備するとともに、周辺環境に配慮した計画としている。	0
Q1 室内環境 病室においては、大きな開口部により昼光率を高めるとともに、バルコニーによる庇効果で直射光を遮る計画としている。吹抜け部に面するガラス面にはLow-Eガラスと電動ブラインドを採用し、温熱環境の負荷削減を図っている。	Q2 サービス性能 天井高さを最大限確保し、圧迫感のない室内環境としている。病院機能の特性を把握し、傷や汚れのつきにくい仕上げ材の選定や、車いす患者に配慮したユニバーサルデザインに取り組んでいる。
Q3 室外環境(敷地内) 50%以上の外構緑化を実施するとともに、ソメイヨシノやイロハモミジを敷地周縁部に植栽し、季節ごとに地域住民が親しみを持てる植栽計画に配慮している。建築設備の排熱の位置に配慮し、7割程度の室外機を4階以上(GL+15.44m)の屋上に設置している。	LR1 エネルギー 空調負荷を低減できる外装計画とし、昼光利用・自然換気を促進する。
LR2 資源・マテリアル 再生材料の利用を促進するとともに、汚染物質含有材料の使用を極力排除している。	LR3 敷地外環境 騒音や振動に配慮した設備機器の配置、高さとしている。設備機器はルーバーにより目隠しをし、景観にも配慮している。北側の田畑への日影の影響の少ない建物高さとしている。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 『ライフサイクルCO₂』とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される